

校長のつぶやき

校長室便り 第54号

令和2年3月1日 山内

式辞 - 「天 我が材を生ずる 必ず用あり」 -

本日、卒業される皆さん。おめでとうございます。教職員一同とともに心よりお祝い申し上げます。あわせて、本日の卒業式までご支援・ご協力いただきました、ご家族の皆様・関係者の皆様にご心より感謝申し上げます。では卒業にあたり、卒業生の皆さんに次の言葉を贈ります。

「天 我が材を生ずる 必ず用あり」唐代の詩人・李白の言葉であります。私はこの言葉を元上司、現在の県高校教育課の伊藤俊課長から教えられました。材とは体や才能の意味だそうです。天は自分という人間をこの世に生んだ。天が生んだ自分には必ず用、すなわち役割、使命があるという意味です。役に立たない人間はいないし、必ずや使命を帯びているのです。私達一人一人に必ず天が託した役割があるのだと思います。社会的に成功を収めて、福祉に寄与する役割の人もいます。ノーベル賞を取って人類に大きな貢献をする人もいます。スポーツ選手として大成して人々に夢を与える役割の人もいます。しかし、このような大きな使命でなくとも良いと思います。自分がどんな些細なことでも良いから、人間としての役割や貢献を担っていればよいのです

大切なのは、天から与えられた役割や使命を自覚できるようになることだと思います。皆さんも「これが、私の使命だったのだ」「私の役割はこれだったのか」と自覚できる時が必ず来るはずですよ。そうすれば、大きな原動力になるはずですよ。仕事の上でも人間関係でも、勉強でも大きな困難にぶつかってもそれを乗り越えられるはずですよ。

では、天から与えられた、自分の役割や使命を自覚できるようになるにはどうしたらよいか。それは、今置かれた立場で全力を出し切る。与えられた仕事に全力で取り組む。将来のことや過去の失敗のことはさておき、全てを全うすることに尽きると思います。勉強、研究、仕事、恋愛、家事などすべてにあてはまります。今の状況を全力で生きることが大切だと思います。このような日々の努力積み重ねが未来への道を開いていくのだと思います。今のこの時を悔いなく生きることの積み重ねが、天から与えられた自分の使命に気付くことになります。

未曾有の大震災からもうすぐ9年。震災は多くの尊い命を奪いました。その中には皆さんと同じ、高校を卒業したばかりの若者も含まれていました。皆さんは彼等の分までしっかりと今を生きなければなりません。今を全力で生きること。そうすれば、自分が天から与えられた役割や使命を自覚できる時が来るはずですよ。すぐ近い将来「これが私の使命だ」自覚できる人もいるかもしれません。もう少し時間がかかる人もいるかもしれません。「天 我が材を生ずる 必ず用あり」 天が皆さんに与えた使命とは何かを求めるように生き、その使命を全うするような生き方を送ってほしいと願っています。

さて、私たち教職員は、皆さんの人生の大切な3年間に関わりを持てたことを「誇り」に思っています。卒業生の皆さん一人一人を心から「誇り」に思っています。岩高が地域から支持され、中学生が「入りたい高校」であるためには卒業生の皆さんが社会で思う存分活躍いただくことです。岩高の真価は、卒業生諸君一人一人の人生にあります。皆さんには、自分が主人公になる主体的な生き方で、それぞれの立場で自らの夢を大きく実現されるとともに、その夢の実現を通して大いに社会に貢献されることを期待しています。皆さんのこれからの輝かしい人生を祈りつつ、卒業に際しての心からの祝辞といたします。

令和2年3月1日 宮城県岩出山高等学校校長 山内 民